

2023 年 2 月 28 日

2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

思春期の意図せぬ妊娠の予防のための性教育実施に  
向けた助産師学生が習得すべき知識の探索：産婦人  
科医師へのインタビュー調査

Exploring the Knowledge to be Acquired by Midwifery  
Students for the Implementation of Comprehensive  
Sexuality Education for the Prevention of Unintended  
Adolescent Pregnancy: Interviews with Obstetricians  
and Gynecologists

21MW007  
坂元里乃

## 要旨

### 【目的】

本研究の目的は、性教育や意図せぬ妊娠をした思春期女性への対応の経験のある産婦人科医師へのインタビューを通じ、思春期を対象とした「包括的セクシュアリティ教育」を実施するために産婦人科医師の考える助産師学生が習得すべき知識を探索し、意図せぬ若年妊娠の予防につながる性教育実践に向けた助産師学生の教育プログラムの構成を考察することである。

### 【方法】

性教育や意図せぬ妊娠をした思春期女性への対応の経験のある産婦人科医師への半構造化面接法によるインタビュー調査を実施し、データを逐語録にまとめた。データの質的帰納的分析を行い、内容ごとにコーディングし、サブカテゴリー、カテゴリーを作成した。その分析結果をもとに、思春期を対象とした「包括的セクシュアリティ教育」を実施するために産婦人科医師の考える助産師学生が習得すべき知識を探索し、意図せぬ若年妊娠の予防につながる性教育実践に向けた助産師学生の教育プログラム構成を考察した。

### 【結果】

助産師学生は、【意図しない妊娠の背景】および【意図しない妊娠をした際に生じる問題】、【思春期世代に知って欲しい性知識】である〈経口避妊薬〉および〈性感染症予防〉について正しい知識を身につけ、将来の性教育実践者として、【日本の性教育の現状】および【集団への性教育の展開方法】についても知ることが求められていた。産婦人科医師が実施している【集団への性教育の内容】としては、素敵なお大人になってほしいといった〈性教育を通して伝えたいメッセージ〉も扱われていた。また、集団への性教育だけでなく、【意図しない妊娠をした個人に合わせた性教育】を実施する能力を身につけることも求められていた。

### 【結論】

助産師学生は、性と生殖についての正しい知識を身につけることに加え、思春期世代の意図せぬ妊娠によって起こり得る問題や背景にある要因を理解し、自分自身や相手を大切にすると人権教育の必要性を認識することが求められる。また、トラウマや生きづらさへの配慮や、その人らしさを受け入れる姿勢によって思春期世代が当事者意識を持って考えられるような性教育を実践できることが示唆された。以上を踏まえた、意図せぬ若年妊娠予防のための性教育実施に向けた助産師学生への教育プログラムの構成として、①思春期世代の意図しない妊娠の問題点を学び、予防の重要性を理解する、②意図せぬ若年妊娠の背景にある要因を学び、低い自己肯定感などの要因も、意図しない妊娠に深く関わっていることを理解する、③避妊法および性感染症に関する一般的な知識と、ボディー・オートノミーの考え方を学ぶ、④思春期世代が、意図しない妊娠を自分事として捉えることができるような性教育の展開方法を学ぶ、以上の4つの内容を含んだ内容を提案する。これらの学習は、講義形式に留まらず、視聴覚教材を用いた学習や、実習として思春期世代の若者に向けた性教育を展開することで、将来の性教育実践者としてより実践的な力を身につけることができると考える。